

2024年4月のてがたんは申し込み制にて実施しました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。

次回のとがたんは5月11日(土)で、テーマは「ツバメの子育て」です。ぜひご参加ください。5月1日(水)の8時30分から電話での申し込みを開始します。市民スタッフの皆さま、次回の下見は5月5日(日)です。

## 4月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→手賀沼遊歩道→水生植物園
- 観察日時/天気：2024年4月13日(土) 10:00~12:00 / 晴れ
- 参加人数：17名(大人13人、中学生以下4人)
- 市民スタッフ：6名(小泉伸夫、石原直子、伊東茂子、北村章子、伴野茂樹、湯瀬一栄)
- 鳥博職員：1名(村松和行)

## — 観察した生き物の記録 —

「\*」は下見だけでみられたもの

【鳥類】キジ科：キジ/カモ科：コガモ、カルガモ<sup>\*</sup>/カイツブリ科：カイツブリ/ハト科：キジバト<sup>\*</sup>/ウ科：カワウ/サギ科：アオサギ、ダイサギ、コサギ<sup>\*</sup>/クイナ科：クイナ(声)<sup>\*</sup>、ヒクイナ(声)<sup>\*</sup>、オオバン/カモメ科：ユリカモメ/タカ科：トビ/カワセミ科：カワセミ/キツツキ科：コゲラ/モズ科：モズ/カラス科：ハシブトガラス、ハシボソガラス/シジュウカラ科：ヤマガラ<sup>\*</sup>、シジュウカラ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/ウグイス科：ウグイス/エナガ科：エナガ/メジロ科：メジロ/ムクドリ科：ムクドリ/ツグミ科：ツグミ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ/アトリ科：カワラヒワ/ホオジロ科：ホオジロ、アオジ、オオジュリン/家禽や外来種：コブハクチョウ(カモ科)、ドバト(ハト科)

【哺乳類】ニホンイタチ<sup>\*</sup>

【昆虫】バッタ目：キンヒバリ、ヤブキリ(幼虫)、ヒメギス(幼虫)/チョウ目：キタテハ、ルリタテハ、キタキチョウ、モンシロチョウ、ナミアゲハ、ヤマトシジミ、ベニシジミ/カメムシ目：ヨコヅナサシガメ、ツヤアオカメムシ、アメンボ/ハチ目：クマバチ、ニホンミツバチ、クロヤマアリ/コウチュウ目：コクゾウムシ、コガタルリハムシ、ルリホソクビハムシ、ナナホシテントウ、オオヒラタシデムシ<sup>\*</sup>、モモブトカミキリモドキ<sup>\*</sup>

【クモ】ハナグモ 【その他の節足動物】ワラジムシ

【両生類】ニホンアマガエル、ウシガエル、オタマジャクシ(種不明)

【草の花】キク科：オニタビラコ、チチコグサモドキ、オオジシバリ、ノゲシ、オニノゲシ、セイヨウタンポポ/カタバミ科：カタバミ、オッチカカタバミ/カヤツリグサ科：スズメノヤリ、ノイネ科：スズメノカタビラ/オオバコ科：タチイヌノフグリ、オオイヌノフグリ/ヒガンバナ科：ハナニラ/サギゴケ科：トキワハゼ、ムラサキサギゴケ/アブラナ科：スカシタゴボウ、イヌガラシ、カラシナ、タネツケバナ、ナズナ/キンポウゲ科：タガラシ/ナデシコ科：オランダミミナグサ、コハコベ、ノミノツヅリ/スミレ科：タチツボスミレ、スミレ/タデ科：スイバ/ケシ科：ナガミヒナゲシ/フウロソウ科：アメリカフウロ/アカネ科：ヤエムグラ/マメ科：カラスノエンドウ、スズメノエンドウ/シソ科：ホトケノザ、ヒメオドリコソウ/ムラサキ科：キュウリグサ

【木の花】バラ科：サクラの仲間、ユキヤナギ/ツバキ科：ツバキの仲間、サザンカの仲間/マメ科：ハナズオウ/アケビ科：アケビ/ガマズミ科：ニワトコ/アサ科：エノキ/ニレ科：ケヤキ/カツラ科：カツラ



今回のテーマは「てがたん 20 周年」でした。観察会が始まった時からのスタッフである小泉さんに発足したきっかけや手賀沼周辺の環境についてのお話を聞きました。過去と今を比べながら、てがたんコースで見られる生き物たちを紹介しました。お天気にも恵まれ、様々な春の花が観察できました。



今月の案内人 小泉 伸夫



①カラスノエンドウに比べて小型で淡いピンクのスズメノエンドウの花



②代表的な八重桜の品種であるカンザン

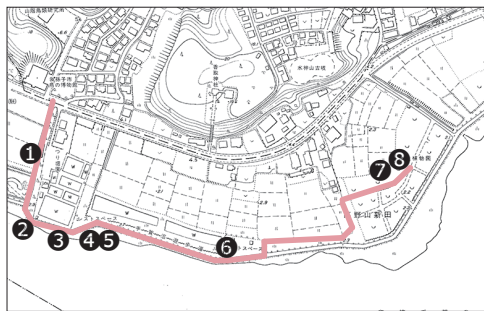


③オオイヌノフグリに比べて小型で濃い青色のタチイヌフグリの花



④小さな実をつけていたウメの木

## 歩いたルートと観察した生き物



⑤ウメの幹の割れ目で見つけたニホンアマガエル



⑥トキワハゼに比べて花が大きく、這うように広がるムラサキサギゴケ



⑦水生植物園で見つけたヘビイチゴの花



⑧よく見ると同じ仲間のワスレナグサにそっくりのキュウリグサの花

## 今月の特集 ナガエツルノゲイトウ (ヒユ科)

この 20 年間で手賀沼で大きく変わったことの 1 つにナガエツルノゲイトウの繁茂が挙げられます。南米原産のヒユ科の多年草で主に水辺に生育します。茎が中空で水に浮きやすく、小さな切れ端からでも盛んに増えるため、在来の生態系に影響を及ぼす可能性があるとして環境省が定めた特定外来生物に指定されています。千葉県では 1990 年に印旛沼で発見されてから、農業用水路を経由して手賀沼流域に広がりました。手賀沼周辺では 1998 年に手賀沼につながる亀成川流域の農業用水路で初めて生育が確認されて以降、2002 年には亀成川流域全体に広がり、2005 年には手賀沼流域全体へ生育地が広がっていった経緯が明らかになっています (写真：手賀沼の水路に繁茂するナガエツルノゲイトウ)。



2015年8月15日撮影